

基本構想を振り返る

平成30年2月18日

多摩市立図書館本館再整備基本計画

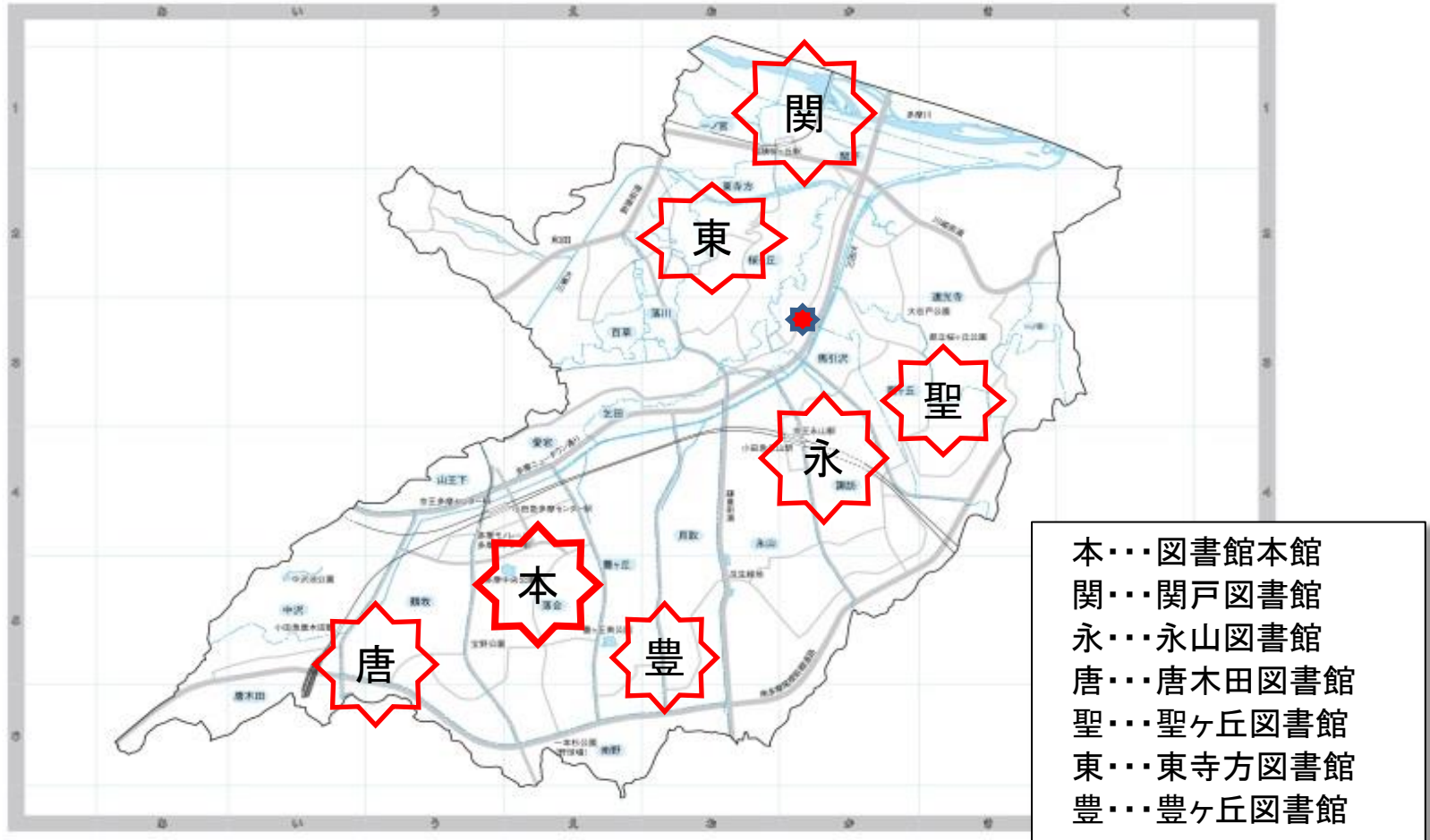
検討委員会(第1回)資料

内容

- 多摩市立図書館の概要
- 基本構想策定までの経緯
- 基本構想の概要
- 図書館整備用地の変遷
- 知の地域創造とは

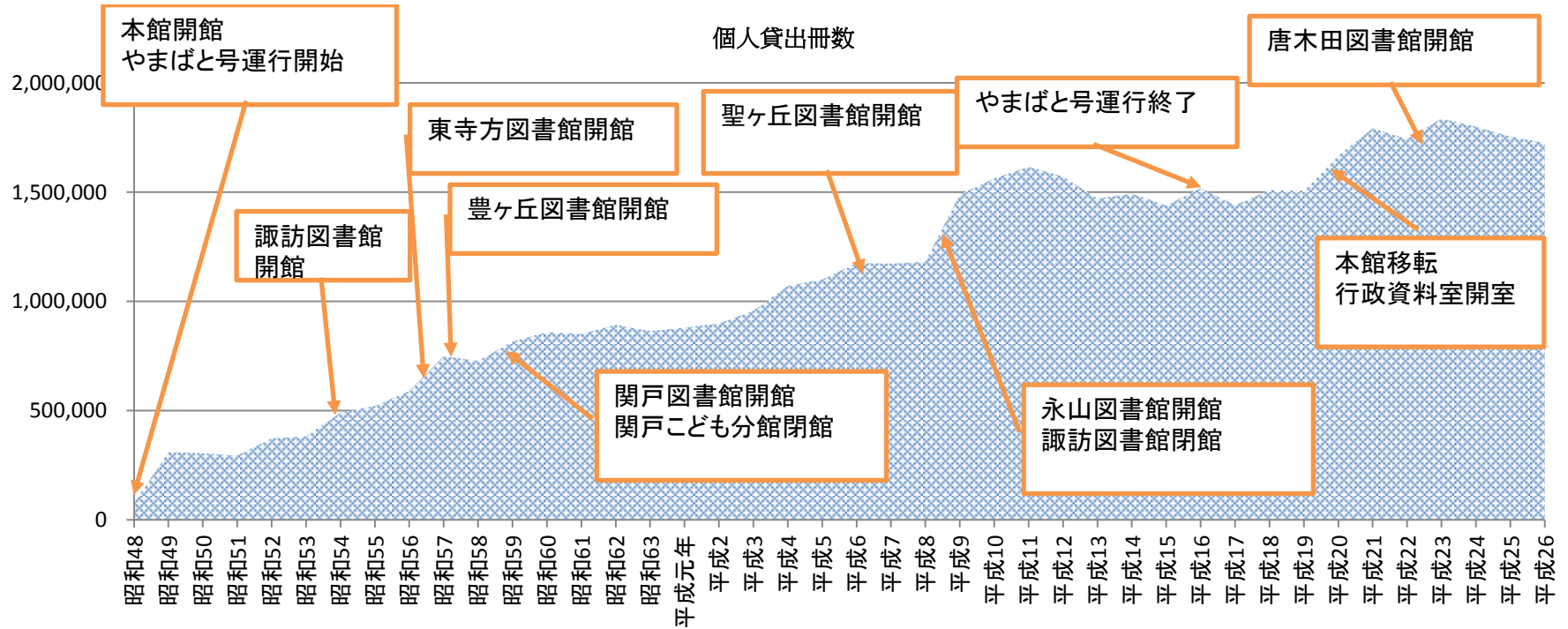
多摩市立図書館の概要

分館網の配置



多摩市立図書館の概要

分館網の整備と個人貸出冊数



多摩市立図書館の概要

同一規模自治体との比較

	多摩市	参考
蔵書冊数	730千冊 (7位)	1位 長浜市 987千冊
資料費決算額	5049万円 (11位)	※1位 一関市 10561万円
個人貸出冊数	1719千点 (2位)	1位 武蔵野市 2448千点
予約受付件数	481千件 (2位)	1位 武蔵野市 604千件
市民一人あたり 貸出冊数	11.6冊	全国平均 5.5冊

『図書館年鑑 2017』より 数字は2016年度のもの。

順位は、人口10万以上15万未満の105団体中のもの

※ 一関市の資料費は新中央館準備用で一時的なものか

基本構想策定までの経緯

多摩市総合計画 基本構想・基本計画(昭和56年)

- コミュニティ施設の整備の中で、ブロックごとの図書館と、全市域対象の中央図書館の整備を位置づけ

「多摩市立中央図書館 基礎調査報告書」のとりまとめ(平成2年)

- 中央図書館に求められるもの
 - 多摩市の図書館網のサービスセンター
 - これからの図書館
 - 市民の暮らしに役立ち、市民の幸せをつくり出すところ
 - 多摩市の頭脳となるところ
 - 市民が互いに交流し、文化を創り出すところ

基本構想策定までの経緯

第三次多摩市総合計画 基本計画(平成3年)

- 市民の自発的な学習を資料面から支える中心的施設として、多摩センター駅周辺地区に中央図書館を建設します。

多摩市立中央図書館の施設整備及び図書館サービスのあり方について

(多摩市図書館協議会答申、平成10年)

- 役割と機能
- 図書館システムの中核
- 生涯学習を支える基盤施設

本館の移転、暫定活用(平成20年)

- 現在の場所、旧西落合中学校に、10年程度の暫定活用で移転
- 多摩センター地区への恒久整備が待たれる状況

基本構想策定までの経緯

公共施設の見直し方針と行動プログラム (平成25年)

- 暫定活用場所から、「旧管路収集センター」への恒久整備の方向性を示す。

公共施設の見直し方針と行動プログラムの更新 の方向性(平成28年)

- 「旧管路収集センター」への整備が現実的に困難に
- 学校法人からの土地交換の申し出
- 整備用地の変更について、市長から教育委員会に協議

基本構想の策定(平成28年)

- 学校法人と土地交換してプール跡地に建てることを想定

基本構想の概要

基本構想策定委員会の設置

- 策定委員会委員10名

策定委員会の検討期間

- 平成28年6月25日～平成29年1月7日
- 第6回目以後で、市民フォーラム、パブリックコメント実施

教育委員会で決定

- 平成29年2月24日

基本構想の概要

検討範囲

図書館ネットワーク
全体の見直し

図書館ネットワーク
全体を支える中央
図書館機能の検討

基本構想の概要 — 検討のステップ

第1回

- 図書館の現状と課題①

第2回

- 図書館の現状と課題②

第3回

- 図書館の現状と課題③

第4回

- 新本館の役割と街づくり

第5回

- サービスと施設環境への提案

第6回

- 基本構想原案の確認

- 市民フォーラム、パブリックコメント

第7回

- 構想案の修正、概要版の作成

基本構想の概要－構成

- まえがき、はじめに、構想立案の経緯

序章

- 「知の地域創造」のために

第一章

- 多摩市民の図書館のいま（現状と課題）

第二章

- 多摩市民のめざす図書館（図書館ネットワークのあるべき姿）

第三章

- 多摩市民を支える中央図書館（中央図書館の将来像）

第四章

- 中央図書館づくりの進め方（今後の検討のポイント）

- 策定委員会の経緯と構成、おわりに、別冊 資料編、概要版

基本構想の概要 — ポイント



基本構想の概要

第一章 現状と課題

背景

- 人口15万、多摩ニュータウン
- 少子化・高齢化、公共施設更新問題

現状

- 7館＋1分室、中規模館の構成
- 多い貸出・リクエスト、学校図書館とのネットワーク

課題

- 暫定活用の本館、書庫
- 人件費、職員の先細り
- めざすべき図書館像は
- 多様な資料に一箇所でアクセスできない

基本構想の概要

第二章 図書館ネットワークのあるべき姿

(方針) 市民の「知る」を 支援する

- だれもが使える図書館。子どもの読書環境の整備。市民や地域に役立つ図書館。
- しらべるを支え、つながる図書館。弾力的な管理・運営

システムとしての 図書館

- 図書館ネットワーク全体＝成長する有機体
- 図書館の役割分担(中央館、拠点館、地域館、学校図書館、アウトリーチ先)

再生まちづくりの 担い手となる 図書館

- 多摩市の魅力向上、出会いの結節点、多世代交流の広場
- 地域コミュニティの相談者、ふるさと多摩市の記憶装置／情報発信基地

基本構想の概要

第三章 多摩市民を支える中央図書館

都市の広場 多様な世代の 居場所

- 子どもたちにとっての「喜びのひろば」
- ティーンズにとっての「たまり場」
- おとなにとっての「知の広場」

基本的サービスの 深化

- 専門性が深化、地域館支援、アウトリーチ
- センター機能、多様な市民と活動を支える

高度に専門化された新しいサービス

- 自己判断自己責任型社会、従来の情報システムの限界
- 公共図書館特有の総合性、課題解決型サービス
- 市民一人ひとりの課題

基本構想の概要

第四章 中央図書館づくりの進め方

図書館計画に欠かせない4つの視点

専門性の総合化

広場性と安全資料管理の両立

全ての行政部門との連携

多様な意見を受け入れる市民性

図書館を構成する3つの要素

資料世界構築、配架表現、相談業務、資料保存

図書館員の専門性、人件費の縮減、仕事分担の見直し、ICT

機能的・快適・魅力的・経済的な施設づくり

図書館整備用地の変遷

第三次多摩市総合計画 基本計画(平成3年)

- 市民の自発的な学習を資料面から支える中心的施設として、多摩センター駅周辺地区に中央図書館を建設します。

多摩市立中央図書館の施設整備及び図書館サービスのあり方について

(多摩市図書館協議会答申、平成10年)

- 交通の便が良く、かつ図書館整備が遅れてしまっている地区としては、多摩センター地区において他にない

本館の移転、暫定活用(平成20年)

- 現在の場所、旧西落合中学校に、10年程度の暫定活用で移転
- 多摩センター地区への恒久整備が待たれる状況

図書館整備用地の変遷

多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラム (平成25年)

- 旧管路収集センター跡地への再整備を位置づけ

学校法人から土地交換の申し出 (平成27年)

- 旧管路収集センター跡地への整備が困難
- 桜美林多摩アカデミーヒルズプール跡地への整備を検討

多摩市立図書館本館再構築基本構想 (平成28年度)

- プール跡地を候補地の前提として、基本構想を検討

図書館整備用地の変遷

パルテノン多摩・周辺施設整備等特別委員会 (平成29年～)

- パルテノン多摩と図書館本館との合築の可能性、プール跡地の土地交換についての可否等を検討
- パルテノンとの合築はしないことを確認
- プール跡地の土地交換について反対が多いことを確認

新たな候補地の提案と検討 (平成29年11月～)

- プール跡地の代替案として、多摩中央公園北西角地(レンガ坂沿い)を提案
- もう一つの候補地(多摩中央公園西駐車場)と比較検討

整備予定地の決定 (平成30年1月)

- 特別委員会で賛成多数により、レンガ坂沿いとすることを確認
- 教育委員会としても、プール跡地からレンガ坂沿いとすることに同意

「知の地域創造」とは

背景

- 時代の変化
- 高齢化の波
- 経済的な幸福の限界

課題

- 文化とは？
- 人は何で満足するか？
- 一人ひとりの生き方は？
- 日常の中での楽しさや喜びとは？

求められるもの

- 人と人とのつながり
- 支えあい
- ところに響く催し
- 知的な刺激を受けられる文化的施設

「知の地域創造」とは 図書館に求められること

資料

- 電子メディアも含めた奥行きのある資料世界の構築
- 課題解決
- 情報をシェア
- 新たな発見

職員

- 「人」と「社会」を資料でつなぐ図書館員
- 図書館員ももっと行動していく

サービス、施設

- 単に本を貸し出す場だけでなく
- こころに響く催し
- 多世代交流の「ひろば」
- 共に学び・育つ場